

GA-A55M-S2H

ユーザーズマニュアル

改版 1001

12MJ-A55MS2H-1001R

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer
G.B.T. Technology Trading GmbH
Bullenköppl 16, 22047 Hamburg, Germany
declare that the product
(description of the apparatus, system, installation to which it refers)
Motherboard
GA-A55M-S2H
is in conformity with
(reference to the specification under which conformity is declared)
in accordance with the EMC Directive 2004/108/E

☒ EN 55011	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of radio transmitting apparatus and high frequency equipment	☒ EN 6100-3-2	Disturbances in supply systems caused by household appliances and similar electrical equipment "Voltage fluctuations"
☒ EN 55013	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment	☒ EN 55024	Information Technology equipment-Immunity characteristics-Limits and methods of measurement
☒ EN 55014-1	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of portable tools and similar electrical apparatus	☒ EN 50082-1	Generic immunity standard Part 1: Residential, commercial and light industry
☒ EN 55015	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaires	☒ EN 50082-2	Generic immunity standard Part 2: Industrial environment
☒ EN 55020	Immunity from radio interference of broadcast receivers and associated equipment	☒ EN 55014-2	Immunity requirements for household appliances tools and similar apparatus
☒ EN 55022	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment	☒ EN 50081-2	EMC requirements for uninterruptible power systems (UPS)
☒ DIN VDE 0855 part 10 ☒ part 15	Cabled distribution systems; Equipment for receiving and/or distribution from corded and television signals		
☒ CE marking			



(EC conformity marking)

The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product with the actual required safety standards in accordance with the LVD Directive 2006/95/EC

☒ EN 60005	Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for household and similar general use	☒ EN 60950	Safety for information technology equipment including electrical business equipment
☒ EN 60335	Safety of household and similar electrical appliances	☒ EN 50081-1	General and Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS)

Manufacturer/Importer

Signature : *Timmy Huang*

(Stamp)

Date: Jun. 20, 2011

Name : Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name:G.B.T. INC. (U.S.A)

Address: 17388 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (818) 854-9336/ (818) 854-9339

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-A55M-S2H

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109

(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any inference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: *Eric Lu*

Date: Jun. 20, 2011

著作権

© 2011 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 著作権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

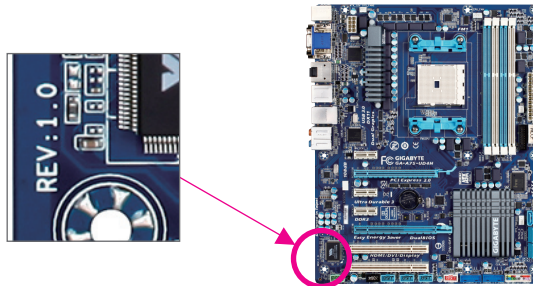
このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

- 本製品を最大限に活用できるように、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。
- 製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：
<http://www.gigabyte.com>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

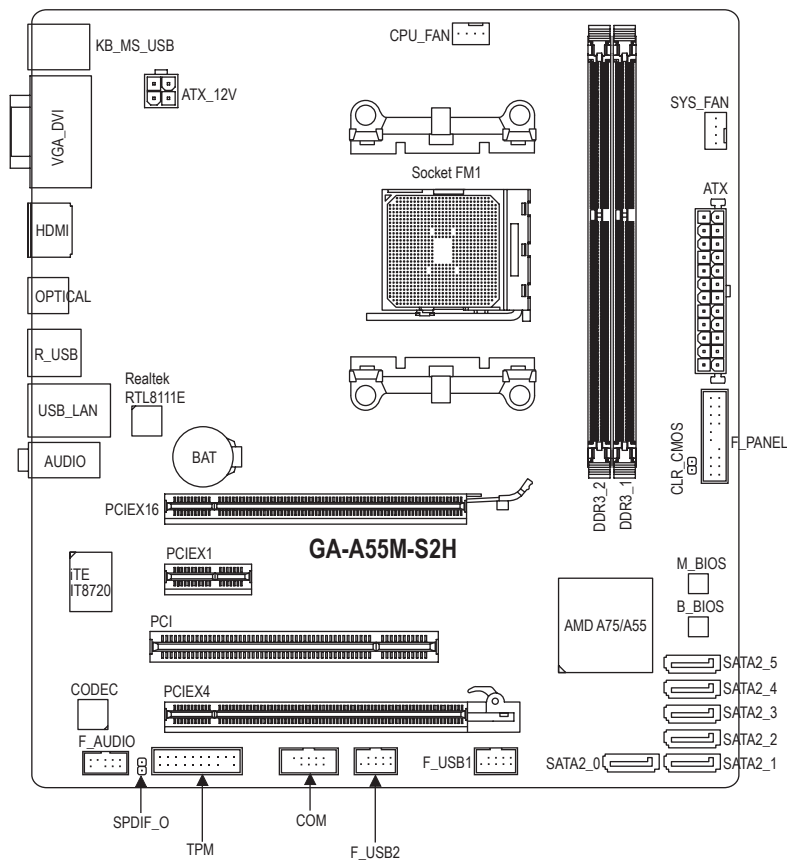
例：



目次

GA-A55M-S2H マザーボードのレイアウト	5
GA-A55M-S2H マザーボードブロック図	6
第 1 章 ハードウェアの取り付け	7
1-1 取り付け手順	7
1-2 製品の仕様	8
1-3 APU および APU クーラーの取り付け	10
1-4 メモリの取り付け	11
1-5 拡張カードを取り付ける	11
1-6 AMDデュアルグラフィックス設定のセットアップ	12
1-7 背面パネルのコネクタ	13
1-8 内部コネクタ	15
第 2 章 BIOS セットアップ	23
2-1 起動スクリーン	23
2-2 メインメニュー	24
2-3 MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)	25
2-4 Standard CMOS Features	29
2-5 Advanced BIOS Features	30
2-6 Integrated Peripherals	31
2-7 Power Management Setup	33
2-8 PC Health Status	35
2-9 Load Fail-Safe Defaults	36
2-10 Load Optimized Defaults	37
2-11 Set Supervisor/User Password	37
2-12 Save & Exit Setup	38
2-13 Exit Without Saving	38
第 3 章 ドライバのインストール	39
第 4 章 付録	39
SATA ハードドライブの設定	39

GA-A55M-S2H マザーボードのレイアウト

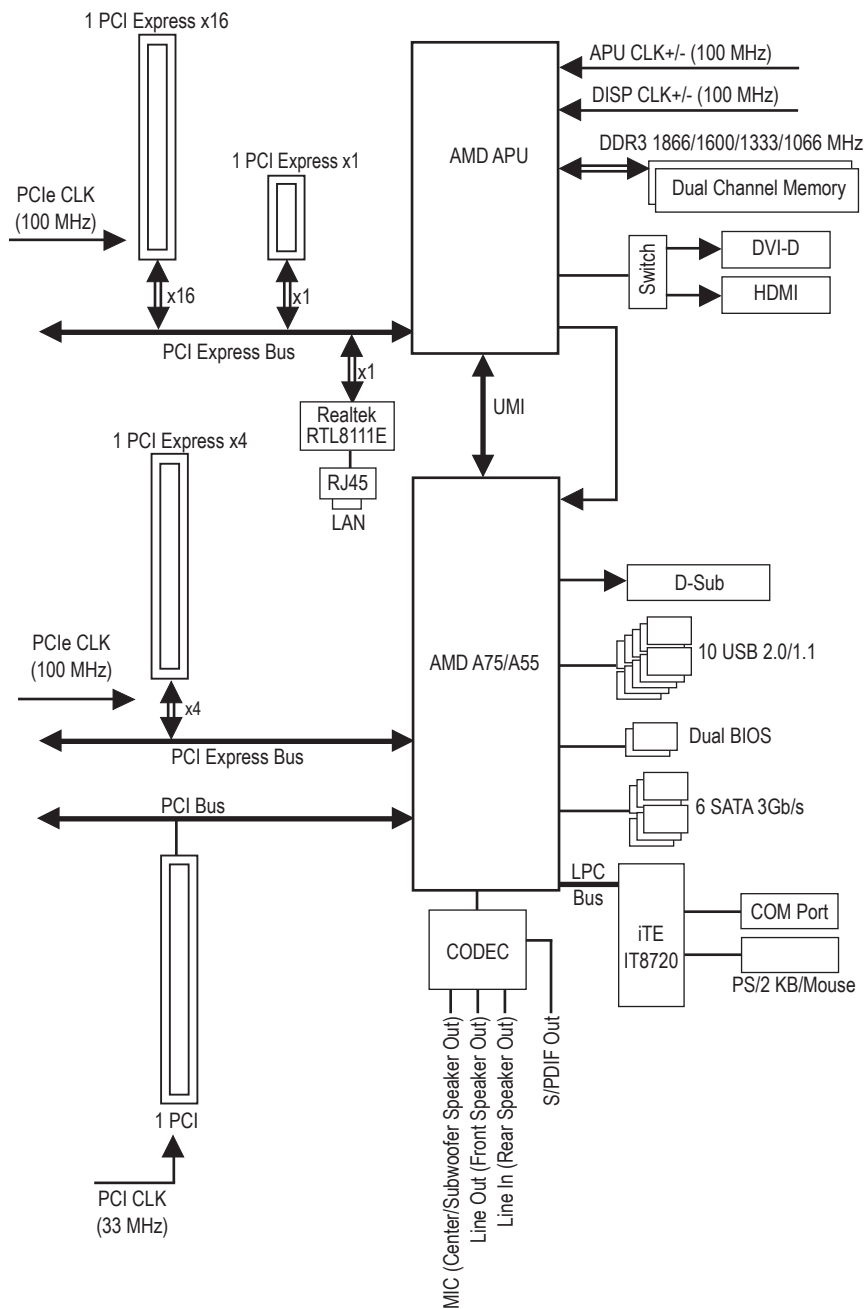


ボックスの内容

- | | |
|--|---|
| ☒ GA-A55M-S2H マザーボード | ☒ 2本のSATAケーブル |
| ☒ マザーボードドライバディスク | ☒ I/Oシールド |
| ☒ ユーザーズマニュアル | |

* 上記のボックスの内容は参照専用であり、実際のアイテムはお求めになった製品パッケージにより異なります。

GA-A55M-S2H マザーボードブロック図



第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電 (ESD) の結果損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズ マニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付ける前に、マザーボードの S/N (シリアル番号) ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて AC 電力を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、APU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電 (ESD) リストストラップを着用することをお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まずは金属物体に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置か、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、けがにつながる恐れがあります。
- 取り付けステップについて不明確な場合や、製品の使用に関して疑問な点がございましたら、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

 APU	- FM1 ソケット: - AMD Aシリーズプロセッサ (最新のAPUサポートリストについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)
 チップセット	AMD A75/A55
 メモリ	- 最大 16 GB のシステムメモリをサポートする 1.5V DDR3 DIMM ソケット (x2) * Windows 32ビットオペレーティングシステムの制限により、4 GB以上の物理メモリが取り付けられるとき、表示される実際のメモリサイズは4 GBより少なくなります。 - デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ - DDR3 1866/1600/1333/1066 MHzメモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)
 オンボードグラフィックス	- APU: - D-Subポートは (x1) - DVI-Dポート (x1)、1920x1200の最大解像度をサポートします。 * DVI-Dポートは、アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません。 - HDMIポート (x1)、1920x1200の最大解像度をサポートします。 (統合されたすべてのグラフィックスポートはホットプラグをサポートしません。コンピュータがオンになっているとき別のグラフィックスポートに変更する場合、まずコンピュータをオフにしてください。)
 オーディオ	- Realtek ALC889 コーデック - ハイディフィニションオーディオ 2/4/5.1/7.1 チャンネル * 7.1チャンネルオーディオを有効にするには、HDフロントパネルオーディオモジュールを使用して、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。 - S/PDIFアウトのサポート
 LAN	Realtek RTL8111E チップ (x1) (10/100/1000 Mbit)
 拡張スロットフェイス	- PCI Express x16 スロット (x1)、x16 で実行 (PCIEX16) * 最適のパフォーマンスを出すために、PCI Expressグラフィックスカードを1つしか取り付けない場合、PCIEX16スロットに必ず取り付けてください。 - PCI Express x16 スロット (x1)、x4 で実行 (PCIEX4) - PCI Express x1 スロット (x1) (すべてのPCI ExpressスロットはPCI Express 2.0規格に準拠しています。) - PCI スロット (x1)
 マルチグラフィックステクノロジー	AMDデュアルグラフィックス技術のサポート
 ストレージインターフェイス	- チップセット: - 最大6つのSATA 3Gb/sデバイスをサポートする6 x SATA 3Gb/s コネクタ - RAID 0、RAID 1、RAID 10、および JBOD のサポート
 USB	- チップセット: - 最大10のUSB 2.0/1.1ポート (背面パネルに6つのポート、内部USBヘッダーを通して4ポートが使用可能)
 内部コネクタ	24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) - SATA 3Gb/s コネクタ (x6)

 内部コネクタ	◆ APU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x1) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ 信頼プラットフォームモジュール(TPM)ヘッダー (x1) ◆ クリアリングCMOSジャンパ (x1)
 背面パネルの コネクタ	◆ PS/2 キーボード/マウスポート (x1) ◆ D-Sub ポート (x1) ◆ DVI-D ポート (x1) ◆ HDMI ポート (x1) ◆ 光学 S/PDIF アウトコネクタ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x6) ◆ RJ-45 ポート (x1) ◆ オーディオジャック (x3) (ラインイン/ラインアウト/マイク)
 I/Oコントローラ	◆ iTE IT8720 チップ
 ハードウェア モニタ	◆ システム電圧の検出 ◆ APU/システム温度検出 ◆ APU/システムファン速度検出 ◆ APU 過熱警告 ◆ APU/システム ファンの失敗警告 ◆ APU/システムファン速度制御 * APU/システムファン速度コントロール機能がサポートされているかどうかは、取り付けたAPU/システムクーラーによって異なります。
 BIOS	◆ 32 Mbit フラッシュ (x2) ◆ 正規ライセンス版AWARD BIOSを搭載 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ PnP 1.0a, DMI 2.0, SM BIOS 2.4, ACPI 1.0b
 固有の機能	◆ @BIOS のサポート ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress BIOS Rescueのサポート ◆ Download Center のサポート ◆ Xpress Install のサポート ◆ Xpress Recovery2 のサポート ◆ EasyTune のサポート * EasyTuneの使用可能な機能は、マザーボードのモデルによって異なります。 ◆ Smart Recovery のサポート ◆ Auto Green のサポート ◆ ON/OFF Charge のサポート ◆ 3TB+ Unlock のサポート ◆ Q-Share のサポート

	バンドルされたソフトウェア	◆ Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン)
	オペレーティングシステム	◆ Microsoft® Windows 7/Vista/XP のサポート
	フォームファクタ	◆ Micro ATX フォームファクタ、24.4cm x 22.5cm

* GIGABYTEは、事前の通知なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する権利を留保します。

1-3 APU および APU クーラーの取り付け

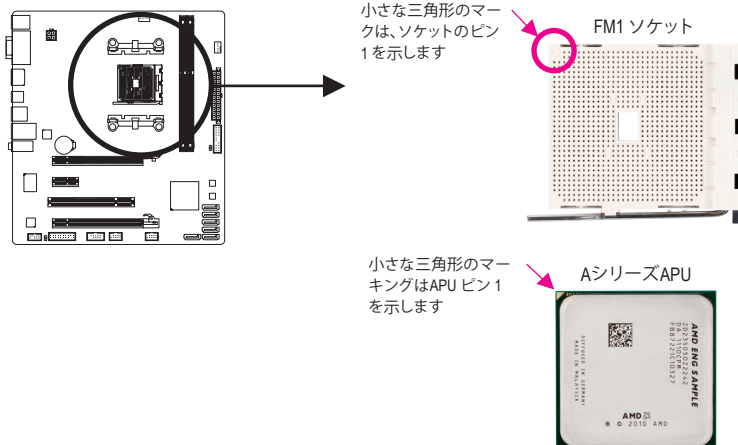


APU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードが APU をサポートしていることを確認してください。
(最新の APU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、APU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- APU のピン 1 を探します。APU は間違った方向には差し込むことができません。
(または、APU の両側で切り込みを、また APU ソケットでアライメントキーを探します。)
- APU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- APU クーラーを取り付けないうちは、コンピュータの電源をオンにしないでください。APU が損傷する原因となります。
- APU の仕様に従って、APU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、APU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

1-3-1 APU を取り付ける

A. APU ソケットのピン 1 (小さな三角形で表示) と APU を確認します。



1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
(最新のメモリサポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えないようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

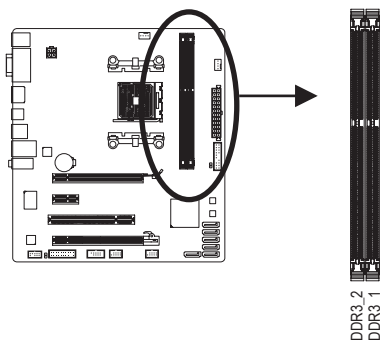
1-4-1 デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには2つのDDR3メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOS はメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を2倍に拡張します。

2つのDDR3メモリソケットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように1つのメモリソケットがあります：

▶チャンネル0: DDR3_2

▶チャンネル1: DDR3_1



APU 制限により、デュアルまたは3チャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

- DDR3メモリモジュールが1つしか取り付けられていない場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているとき、最適のパフォーマンスを発揮するために同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用するようにお勧めします。

1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードが拡張カードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

1-6 AMDデュアルグラフィックス設定のセットアップ

オンボードGPUを離散グラフィックスカードに結合することで、AMDのデュアルグラフィックス技術はAMDプラットフォームのきわめて先進的なディスプレイパフォーマンスを提供できます。次の指示では、Dual Graphics システムの構成に関して詳しく説明しています。

A. システム要件

- AMD Aシリーズプロセッサ
- Windows 7オペレーティングシステム
- AMDデュアルグラフィックス技術サポートされたマザーボードと正しいドライバ
- AMDデュアルグラフィックス技術をサポートするAMD Radeon HD 6000シリーズのグラフィックスカード（詳細については、AMDの公式Webサイトにアクセスしてください）と正しいドライバ

B. グラフィックスカードの取り付けとBIOSセットアップの設定

ステップ 1:

「1-5 拡張カードの取り付け」のステップを観察し、PCIEX16スロットにAMDデュアルグラフィックス技術をサポートするグラフィックスカードを取り付けます。モニターケーブルをグラフィックスカードに差し込み、コンピュータを起動します。

ステップ 2:

BIOSセットアップに入り、**Advanced BIOS Features**メニューの下で次の項目を設定します:

- **UMA Frame Buffer Size**を**512MB**または**1024MB**に設定します。
- **Init Display First**を**Onboard**。

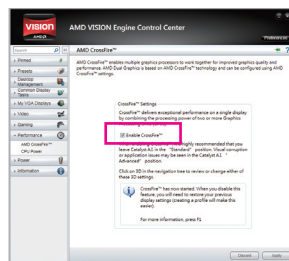
設定を保存し、BIOSセットアップを終了します。コンピュータの電源をオフにします。

ステップ 3:

グラフィックスカードからモニターケーブルを取り外し、背面パネルに統合されたグラフィックスポートに差し込み、コンピュータを再起動します。

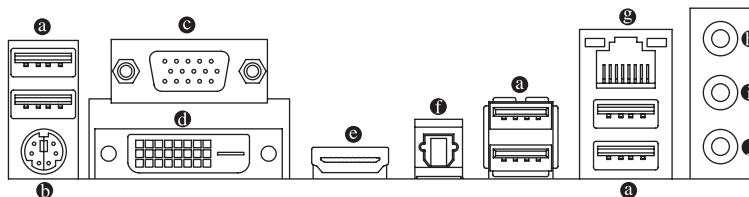
C. グラフィックスドライバを構成する

オペレーティングシステムにグラフィックスカードドライバを取り付けた後、**AMD VISION Engine Control Center**に移動します。**PerformanceAMD CrossFire™** を閲覧し、**Enable CrossFire™** を有効にするチェックボックスが選択されていることを確認します。



(注) チップセット、オンボードグラフィックス、および外部グラフィックスカードのドライバが適切に取り付けられていることを確認します。

1-7 背面パネルのコネクタ



① USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートし、USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用してください。

② PS/2キーボードおよびPS/2マウスポート

上部ポート（緑）を使ってPS/2マウスを接続し、下部ポート（紫）を使ってPS/2キーボードを接続します。

③ D-Sub ポート^(注1)

D-Subポートは、15ピンD-Subコネクタに対応しています。D-Sub接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

④ DVI-D ポート^{(注1)(注2)}

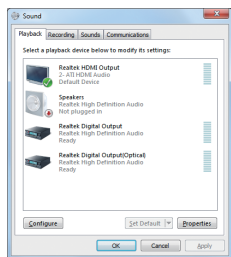
DVI-DポートはDVI-D仕様に準拠しており、1920x1200の最大解像度をサポートします（サポートされる実際の解像度は使用されるモニタによって異なります）。DVI-D接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

⑤ HDMI ポート^(注1)

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、非圧縮音声 / 動画信号の伝送が可能な全デジタルオーディオ / ビデオインターフェイスです。HDMIポートはHDCPに対応し、ドルビー TrueHDおよびDTS HDマスターオーディオ形式をサポートしています。最大192KHz/24ビットの8チャンネルLPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニタに接続します。サポートする最大解像度は1920 x 1200ですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



HDMIモニターをインストールした後、デフォルト音声再生デバイスがHDMIに設定されていることを確認してください。（項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。以下のスクリーンショットはWindows 7のもので。）



Windows 7で、スタート>コントロールパネル>ハードウェアとサウンド>自動再生の順に選択し、**Realtek HDMI Output - ATI HDMI Audio**をデフォルトの再生デバイスに設定します。

(注1) 統合されたすべてのグラフィックスポートはホットプラグをサポートしません。コンピュータがオンになっているとき別のグラフィックスポートに変更する場合、まずコンピュータをオフにしてください。

(注2) DVI-Dポートは、アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません。

A. デュアルディスプレイ構成:

このマザーボードには、3つのビデオ出力ポートが装備されています: D-Sub、DVI-D、および HDMI。次の表は、サポートと未サポートのデュアルディスプレイ設定を示しています。

デュアルディスプレイ	組み合わせ	サポートまたは非サポート
	DVI-D + D-Sub	はい
	DVI-D + HDMI	いいえ ^(注)
	HDMI + D-Sub	はい

(注) HDMI ポートのみが有効になります。

B. HD DVDとBlu-rayディスクの再生:

再生品質を上げるために、HD DVDまたはBlu-rayディスクを再生しているとき、以下の最低システム要件を参照してください。

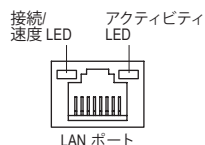
- プロセッサ: AMD Aシリーズのプロセッサ
- メモリ: デュアルチャンネルモードを有効にした2つの 1 GB DDR3 1333 メモリモジュール
- BIOSセットアップ: 少なくとも512 MBのフレームバッファサイズが必要です(第2章「BIOSセットアップ」、「アドバンスドBIOS機能」を参照してください)
- 再生ソフトウェア: CyberLink PowerDVD 10.0以上 (注: ハードウェアアクセラレーションが有効になっていることを確認してください)
- HDCP 準拠モニタ

① 光学 S/PDIF アウトコネクタ

このコネクタは、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムにデジタルオーディオアウトを提供します。この機能を使用する前に、オーディオシステムが光学デジタルオーディオインコネクタを提供していることを確認してください。

② RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を説明しています。



接続/速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません

③ ラインインジャック(青)

デフォルトのラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

④ ラインアウトジャック(緑)

デフォルトのラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックを使用して、4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定の前面スピーカーを接続します。

⑤ マイクインジャック(ピンク)

デフォルトのマイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。

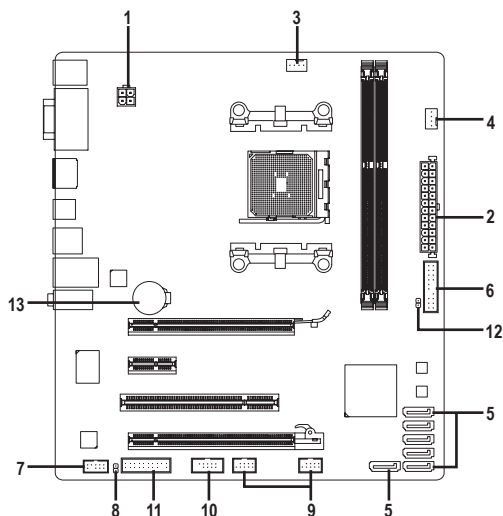


7.1チャンネルオーディオを有効にするには、HDフロントパネルオーディオモジュールを使用して、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。



- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外す際は、まずデバイスからケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際は、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

1-8 内部コネクタ



1) ATX_12V	8) SPDIF_O
2) ATX	9) F_USB1/F_USB2
3) CPU_FAN	10) COM
4) SYS_FAN	11) TPM
5) SATA2_0/1/2/3/4/5	12) CLR_CMOS
6) F_PANEL	13) BAT
7) F_AUDIO	



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください:

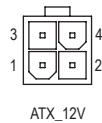
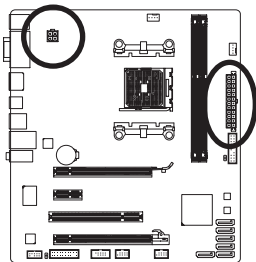
- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスをインストールした後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかり接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V/ATX (2x2 12V 電源コネクタと 2x12 メインの電源コネクタ)

電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されており、電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。12V 電源コネクタは、主に APU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

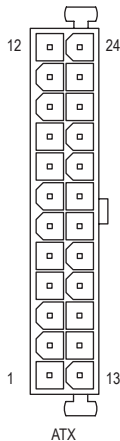


拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします (500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



ATX_12V:

ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

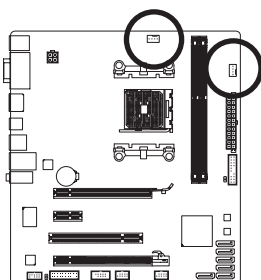


ATX:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (スロット オン/オ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	-5V
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN (ファンヘッダ)

マザーボードには、4ピンCPUファンヘッダ(CPU_FAN)と4ピンシステムファンヘッダ(SYS_FAN)が搭載されています。ほとんどのファンヘッダはきわめて簡単な挿入設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向で接続していることを確認してください(黒いコネクタはアース用線です)。マザーボードはAPUファン速度コントロールをサポートしますが、ファン速度コントロール設計のAPUファンを使用する必要があります。最適な放熱を達成するには、システムファンをシャーシ内部に取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V / 速度制御
3	検知
4	速度制御

SYS_FAN:

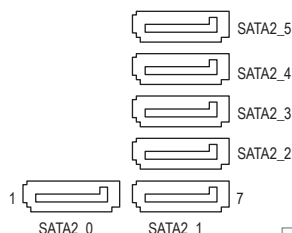
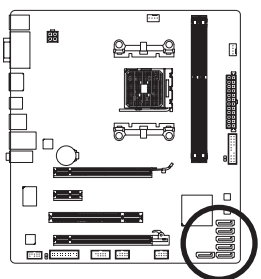
ピン番号	定義
1	GND
2	+12V / 速度制御
3	検知
4	確保



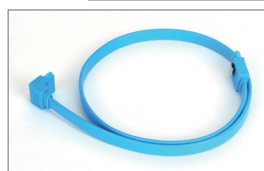
- APUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。過熱はAPUブリッジが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

5) SATA2_0/1/2/3/4/5 (SATA 3Gb/s コネクタ、AMD A75/A55 チップセット制御)

SATA コネクタはSATA 3Gb/s 標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれのSATA コネクタは、単一のSATA デバイスをサポートします。AMD A75/A55 チップセットRAID 0、RAID 1、RAID10、およびJBODをサポートします。RAIDアレイの構成の説明については、第4章「SATAハードドライブを構成する」を参照してください。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND



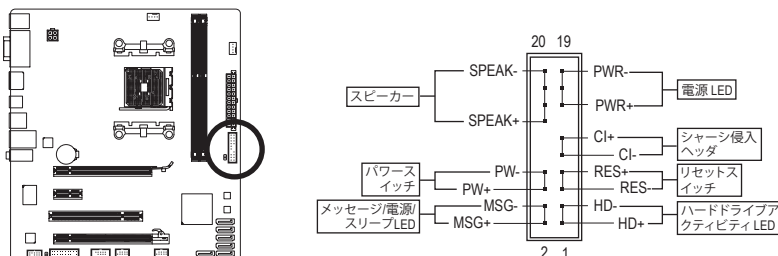
SATA ケーブルの L 形状の端を SATA ハードドライブに接続してください。



- RAID 0 または RAID 1 設定は、少なくとも 2 台のハードドライブを必要とします。ハードドライブ2台以上を使う場合には、ハードドライブの総数を偶数にする必要があります。
- RAID 10構成には、ハードドライブが4台必要となります。

6) F. PANEL (前面パネルヘッダ)

電源スイッチを接続し、以下のピン割り当てに従ってシャーシの電源スイッチ、リセットスイッチ、スピーカー、システムステータスインジケータをこのヘッダにリセットします。ケーブルを接続する前に、正と負のピンに注意してください。



- **MSG/PWR** (メッセージ/電源/スリープLED、黄/紫):

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。

- **PW** (パワースイッチ、赤):

シャーシ前面パネルのパワースイッチに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます (詳細については、第 2 章、「BIOS セットアップ」、「電源管理のセットアップ」を参照してください)。

- **SPEAK** (スピーカー、オレンジ):

シャーシ前面パネルのスピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が 1 度鳴ります。問題を検出すると、BIOS は異なるパターンのビープ音を鳴らして問題を示します。

- **HD** (ハードドライブアクティビティ LED、青):

シャーシ前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LED はオンになります。

- **RES** (リセットスイッチ、緑):

シャーシ前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

- **CI** (シャーシ侵入ヘッダ、グレイ):

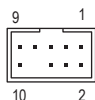
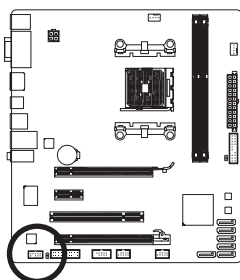
シャーシカバーが取り外されている場合、シャーシの検出可能なシャーシ侵入スイッチ/センサーに接続します。この機能は、シャーシ侵入スイッチ/センサーを搭載したシャーシを必要とします。



前面パネルのデザインは、シャーシによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。シャーシ前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

7) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。シャーシ前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することすらあります。



HD 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	LINE2_R
6	GND
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	GND

AC'97 前面パネルオーディオの場合:

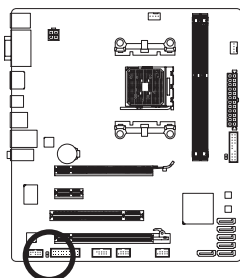
ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC/パワー
4	NC
5	ラインアウト (右)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ラインアウト (左)
10	NC



- 前面パネルのオーディオヘッダは、デフォルトで HD オーディオをサポートしています。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に存在します。
- シャーシの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一プラグの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、シャーシメーカーにお問い合わせください。

8) SPDIF_0 (S/DPDIFアウトヘッダ)

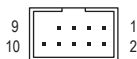
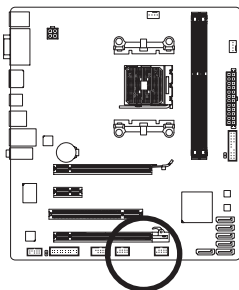
このヘッダはデジタルS/DPDIFアウトをサポートし、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードにS/DPDIFデジタルオーディオケーブル (拡張カードに付属) を接続します。例えば、グラフィックスカードの中には、HDMIディスプレイをグラフィックスカードに接続しながら同時にHDMIディスプレイからデジタルオーディオを出力したい場合、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードまでS/DPDIFデジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。S/DPDIFデジタルオーディオケーブルの接続の詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。



ピン番号	定義
1	SPDIF0
2	GND

9) F_USB1/F_USB2 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合は、販売代理店にお問い合わせください。



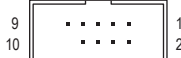
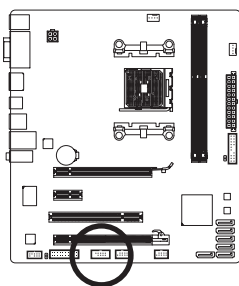
ピン番号	定義
1	電源 (5V)
2	電源 (5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

10) COM (シリアルポートヘッダ)

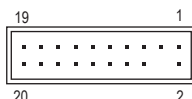
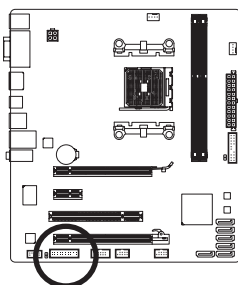
COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、販売代理店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	ND CD-
2	NS IN
3	NS OUT
4	ND TR-
5	GND
6	NDSR-
7	NRTS-
8	NCTS-
9	NRI-
10	ピンなし

11) TPM (信頼プラットフォームモジュールヘッダー)

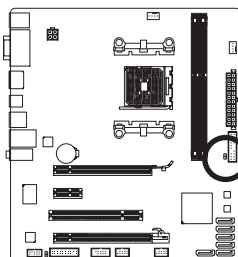
TPM (信頼プラットフォームモジュール) をこのヘッダーに接続できます。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	LCLK	11	LAD0
2	GND	12	GND
3	LFRAME	13	NC
4	ピンなし	14	ID
5	LRESET	15	SB3V
6	NC	16	SERIRQ
7	LAD3	17	GND
8	LAD2	18	NC
9	VCC3	19	NC
10	LAD1	20	SUSCLK

12) CLR_CMOS (クリアリングCMOSジャンパ)

このジャンパを使用して、CMOS値をクリアしたり (日付情報とBIOS設定)、CMOS値を出荷時設定にリセットします。CMOS値を消去するには、ジャンパキャップを2つのピンにかぶせて2つのピンを一瞬ショートさせるか、ドライバーのような金属物体を使用して数秒間2つのピンに触れてください。



開く: Normal

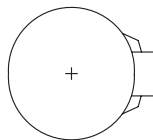
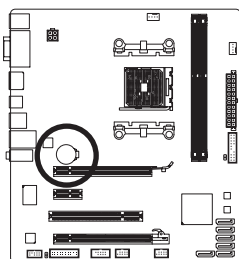
ショート: CMOS値の消去



- CMOS値を消去する前に、常にコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CMOS値を消去した後、コンピュータの電源をオンにする前に、ジャンパからジャンパを必ず取り外してください。取り外さないと、マザーボードが損傷するおそれがあります。
- システムが再起動した後、BIOS セットアップに移動して工場出荷時の設定をロードするか (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第2章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

13) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。そうしないと、CMOS 値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS 値を消去できます：

1. コンピュータのパワーをオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1分待ちます。
(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリーホルダの正および負の端子に触れ、5 秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、爆発する恐れがあります。
- バッテリーを自分自身で交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または最寄りの代理店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

第2章 BIOS セットアップ

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、パワーがオンになっているとき POST 中に <Delete> キーを押します。詳細な BIOS セットアップメニューオプションを表示するには、BIOS セットアッププログラムのメインメニューで <Ctrl> + <F1> を押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユティリティを使用します。

- Q-Flash で、オペレーティングシステムに入らずに、BIOS を素早く簡単にアップグレードまたはバックアップできます。
- @BIOS は Windows ベースのユーティリティで、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索してダウンロードしたり、BIOS を更新したりします。



- BIOS フラッシュは危険なため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生した場合、BIOS をフラッシュしないことをお勧めします。BIOS をフラッシュするには、注意して行ってください。BIOS の不適切なフラッシュは、システムの誤動作の原因となります。
- システムが不安定になったりその他の予期せぬ結果を引き起こすことがあるため、(必要でない場合) 既定値の設定を変更しないことをお勧めします。設定を不完全に変更すると、システムは起動できません。その場合、CMOS 値を消去しボードを既定値にリセットしてみてください。
(CMOS 値をクリアする方法については、本章の「ロード最適化デフォルト」セクションまたは第1章のバッテリークリアリング CMOS ジャンパの「はじめに」を参照してください。)

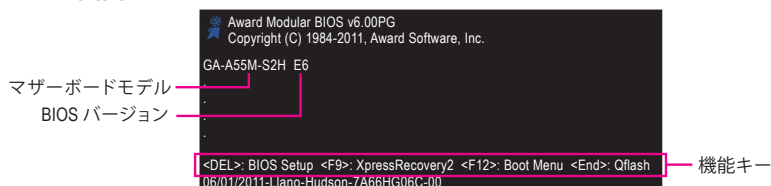
2-1 起動スクリーン

コンピュータが起動するとき、次の画面が表示されます。

A. ロゴ画面 (デフォルト):



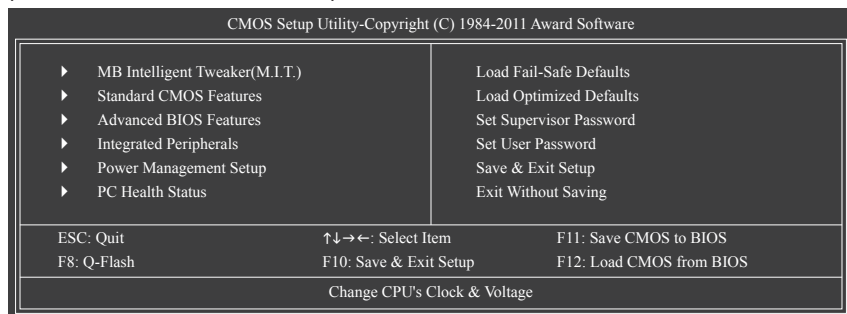
B. POST画面



2-2 メインメニュー

BIOS セットアッププログラムに入ると、(以下に表示されたように) メインメニューがスクリーンに表示されます。矢印キーでアイテム間を移動し、<Enter> を押してコマンドを実行するか、サブメニューに入ります。

(サンプルの BIOS バージョン: E6)



- メインメニューまたはサブメニューに目的の設定が見つからない場合、<Ctrl>+<F1> を押して詳細オプションにアクセスします。
- システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** アイテムを選択してシステムをその既定値に設定します。
- この章で説明した BIOS セットアップメニューは、BIOS のバージョンによって異なる場合があります。

■ <F11> および <F12> キーの機能 (メインメニューの場合のみ)

▶ F11 : Save CMOS to BIOS

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できます。最大 8 つのプロファイル (プロファイル 1-8) を作成し、各プロファイルに名前を付けることができます。まず、プロファイル名を入力し (既定値のプロファイル名を消去するには、SPACE キーを使用します)、次に <Enter> を押して完了します。

▶ F12 : Load CMOS from BIOS

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定を設定し直す煩わしさを避けることができます。まず、ロードするプロファイルを選択し、次に <Enter> を押して完了します。

2-3 MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)			
▶ IGX Configuration	[Press Enter]		Item Help
CPU Clock Ratio	[Auto]	2400Mhz	Menu Level ▶
CPU NorthBridge Freq.	[Auto]		
Core Performance Boost ^(註)	[Enabled]		
CPB Ratio ^(註)	[Auto]	2400Mhz	
CPU Host Clock Control	[Auto]		
x CPU Frequency (MHz)		100	
PCIe Spread Spectrum	[Disabled]		
Set Memory Clock	[Auto]		
x Memory Clock		x6.66 1333Mhz	
▶ DRAM Configuration	[Press Enter]		
***** System Voltage Optimized *****			
System Voltage Control	[Auto]		
x FCH Voltage Control	Auto		
x CPU PLL Voltage Control	Auto		
x DDR3 Voltage Control	Auto		
x DDR VTT Voltage Control	Auto		
x CPU NB VID Control	Auto		
x CPU Voltage Control	Auto		
Normal CPU Vcore		1.3750V	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults			



- システムがオーバークロック/過電圧設定で安定して作動しているかどうかは、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック/過電圧を間違って実行するとCPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(設定を不完全に変更すると、システムは起動できません。その場合、CMOS 値を消去しボードを既定値にリセットしてください)。
- System Voltage Optimized** 項目が赤で点滅するとき、**System Voltage Control** 項目を **Auto** に設定してシステム電圧設定を最適化することをお勧めします。

IGX Configuration

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software IGX Configuration			
UMA Frame Buffer Size	[Auto]		Item Help
VGA Core Clock control	[Auto]		Menu Level ▶▶
x VGA Core Clock(MHz)		600	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults			

UMA Frame Buffer Size

フレームバッファサイズは、オンボードグラフィックスコントローラに対してのみ割り当てられたシステムメモリの合計量です。例えば、MS-DOSはディスプレイに対してこのメモリのみを使用します。オプション: Auto (既定値)、256MB、512MB、1024 MB。

VGA Core Clock control

VGA Core クロックの制御の有効/無効を切り替えます。(既定値: Auto)

VGA Core Clock (MHz)

VGA Core クロックを手動で設定します。調整可能な範囲は 300 MHz~2000 MHz の間です。**VGA Core Clock control** オプションが **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

- ☞ **CPU Clock Ratio**
取り付けたCPUのクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付けるCPUによって異なります。
- ☞ **CPU NorthBridge Freq.**
CPUノースブリッジコントローラの周波数を変更できます。
- ☞ **Core Performance Boost^(注)**
コアパフォーマンスブースト (CPB)技術、CPUパフォーマンスブースト技術を有効にするかどうかを決定します。(既定値: Enabled)
- ☞ **CPB Ratio^(注)**
CPBの速度を変更します。調整可能範囲は、取り付けるCPUによって異なります。(既定値: Auto)
- ☞ **CPU Host Clock Control**
CPU ホストクロックの制御の有効/無効を切り替えます。**Auto** (既定値) では、BIOS が CPU ホスト周波数を自動的に調整します。**Manual** にすると、以下の **CPU Frequency (MHz)** 項目を構成できるようになります。
注: オーバークロックの後システムが起動に失敗した場合、20秒待ってシステムを自動的に再起動するか、または CMOS 値を消去してボードを既定値にリセットします。
- ☞ **CPU Frequency (MHz)**
CPU ホスト周波数を手動で設定します。**CPU Host Clock Control**が**Manual**に設定されているときのみ、このオプションを構成できます。**重要:** CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。
- ☞ **PCIe Spread Spectrum**
PCIeスペクトラム拡散の有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)
- ☞ **Set Memory Clock**
メモリクロックを手動で設定するかどうかを決定します。**Auto** では、BIOS は必要に応じてメモリクロックを自動的に設定します。**Manual** にすると、以下のメモリクロックコントロール項目をすべて構成できます。(既定値: Auto)
- ☞ **Memory Clock**
Set Memory Clock が **Manual** に設定されているときのみ、このオプションを構成できます。
 - ▶▶ X5.33 Memory Clock を X5.33に設定します。
 - ▶▶ X6.66 Memory Clock を X6.66に設定します。
 - ▶▶ X8.00 Memory Clock を X8.00に設定します。
 - ▶▶ X9.33 Memory Clock を X9.33に設定します。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

☞ DRAM Configuration

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software					
DRAM Configuration					
DDR3 Timing Items		[Auto]	SPD	Auto	Item Help
x	1T/2T Command Timing	Auto	--	--	Menu Level ▶
x	CAS# latency	Auto	9T	9T	
x	RAS to CAS R/W Delay	Auto	9T	9T	
x	Row Precharge Time	Auto	9T	9T	
x	Minimum RAS Active Time	Auto	24T	24T	
x	TwTr Command Delay	Auto	5T	5T	
x	Trfc0 for DIMM2	Auto	110ns	110ns	
x	Trfc1 for DIMM1	Auto	--	--	
x	Write Recovery Time	Auto	10T	6T	
x	Precharge Time	Auto	5T	4T	
x	Row Cycle Time	Auto	33T	20T	
x	RAS to RAS Delay	Auto	4T	4T	
x	Four Bank Activate Windows	Auto	--	--	
Bank Interleaving		[Enabled]			
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help					
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults					

☞ DDR3 Timing Items

Manualにすると、以下のDDR3タイミング項目をすべて構成できます。

オプション: Auto (既定値)、手動。

☞ 1T/2T Command Timing

オプション: Auto (既定値)、1T、2T。

☞ CAS# latency

オプション: Auto (既定値)、5T~14T。

☞ RAS to CAS R/W Delay

オプション: Auto (既定値)、5T~14T。

☞ Row Precharge Time

オプション: Auto (既定値)、5T~14T。

☞ Minimum RAS Active Time

オプション: Auto (既定値)、15T~36T。

☞ TwTr Command Delay

オプション: Auto (既定値)、4T~8T。

☞ Trfc0 for DIMM2

オプション: Auto (既定値)、90ns、110ns、160ns、300ns、350ns。

☞ Trfc1 for DIMM2

オプション: Auto (既定値)、90ns、110ns、160ns、300ns、350ns。

☞ Write Recovery Time

オプション: Auto (既定値)、5T~8T、10T、12T、14T、16T。

☞ Precharge Time

オプション: Auto (既定値)、4T~8T。

☞ Row Cycle Time

オプション: Auto (既定値)、20T~54T。

☞ RAS to RAS Delay

オプション: Auto (既定値)、4T~8T。

☞ Four Bank Activate Window

オプション: Auto (既定値)、16T~40T。

☞ **Bank Interleaving**

メモリバンクのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** 化すると、システムはメモリのさまざまなバンクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。(既定値: Enabled)

***** System Voltage Optimized *****

☞ **System Voltage Control**

システム電圧を手動で設定するかどうかを決定します。**Auto** では、BIOS は必要に応じてシステム電圧を自動的に設定します。**Manual** にすると、以下の電圧コントロール項目をすべて構成できます。(既定値: Auto)

☞ **FCH Voltage Control**

チップセット電圧を設定できます。

▶ Normal 必要に応じて、チップセット電圧を供給します。(既定値)

▶ 0.1V ~ 0.3V 調整可能な範囲は 0.1V~0.3V の間です。

☞ **CPU PLL Voltage Control**

CPU PLL 電圧を設定します。

▶ Normal 必要に応じて、CPU PLL電圧を供給します。(既定値)

▶ 2.025V ~ 3.135V 調整可能な範囲は 2.025V~3.135V の間です。

注: CPU電圧電圧を上げると、CPUが損傷したり、CPUの耐用年数が減少する原因となります。

☞ **DDR3 Voltage Control**

メモリ電圧を設定します。

▶ Normal 必要に応じて、メモリ電圧を供給します。(既定値)

▶ 1.025V ~ 2.135V 調整可能な範囲は 1.025V~2.135V の間です。

注: メモリ電圧を上げると、メモリが損傷したり、メモリの耐用年数が減少する原因となります。

☞ **DDR VTT Voltage Control**

DDR VTT 電圧を設定します。

▶ Normal 必要に応じて、DDR VTT 電圧を供給します。(既定値)

▶ 0.515V ~ 1.145V 調整可能な範囲は 0.515V~1.145V の間です。

☞ **CPU NB VID Control**

CPU ノースブリッジ VID 電圧を設定します。

▶ Normal 必要に応じて、CPU NB VID電圧を供給します。(既定値)

▶ -0.600V ~ +0.600V 調整可能な範囲は -0.600V~+0.600V の間です。

☞ **CPU Voltage Control**

CPU電圧を設定します。

▶ Normal 必要に応じて、CPU電圧を供給します。(既定値)

▶ -0.600V ~ +0.600V 調整可能な範囲は -0.600V~+0.600V の間です。

☞ **Normal CPU Vcore**

CPUのノーマルの動作圧力を表示します。

2-4 Standard CMOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy)	Thu, Jun 2 2011	Item Help Menu Level ▶
Time (hh:mm:ss)	22:31:24	
▶ IDE Channel 0 Master	[None]	
▶ IDE Channel 0 Slave	[None]	
▶ IDE Channel 1 Master	[None]	
▶ IDE Channel 1 Slave	[None]	
▶ IDE Channel 2 Master	[None]	
▶ IDE Channel 3 Master	[None]	
Halt On	[All, But Keyboard]	
Base Memory	640K	
Extended Memory	941M	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

☞ Date (mm:dd:yy)

システムの日付を設定します。

☞ Time (hh:mm:ss)

システムの時刻を設定します。

☞ IDE Channel 0, 1 Master/Slave

▶ IDE HDD Auto-Detection

<Enter> を押して、このチャンネルの SATA デバイスのパラメータを自動検出します。

▶ IDE Channel 0, 1 Master/Slave

以下の2つの方法のうちどれか1つをつかって、SATAデバイスを構成します:

- Auto POST 中に、BIOS により SATA デバイスが自動的に検出されます。(既定値)
- None SATA デバイスが使用されていない場合、このアイテムを **None** に設定すると、システムは POST 中にデバイスの検出をスキップしてシステムの起動を高速化します。

▶ Access Mode ハードドライブのアクセスモードを設定します。オプションは: Auto (既定値)、CHS、LBA、Large。

☞ IDE Channel 2, 3 Master

▶ IDE Auto-Detection

<Enter> を押して、このチャンネルの SATA デバイスのパラメータを自動検出します。

▶ Extended IDE Drive

以下の2つの方法のうちどれか1つをつかって、SATAデバイスを構成します:

- Auto POST 中に、BIOS により SATA デバイスが自動的に検出されます。(既定値)
- None SATA デバイスが使用されていない場合、このアイテムを **None** に設定すると、システムは POST 中にデバイスの検出をスキップしてシステムの起動を高速化します。

▶ Access Mode ハードドライブのアクセスモードを設定します。オプションは、Auto (既定値)、Large。

▶ Capacity 現在取り付けられているハードドライブのおおよその容量。

☞ Halt On

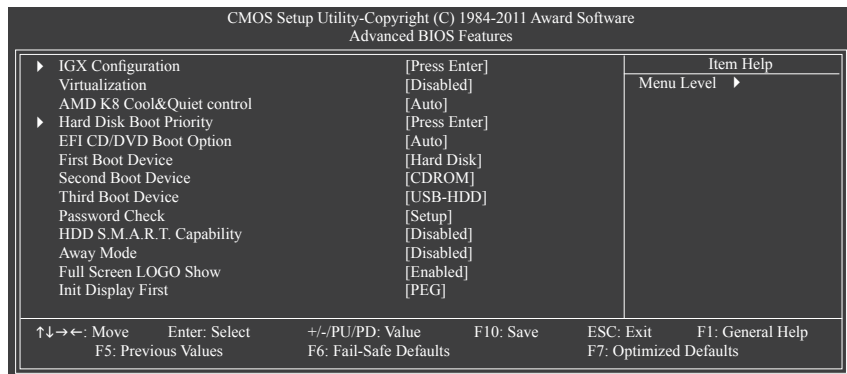
システムが POST 中にエラーに対して停止するかどうかを決定します。

オプション: 「All Errors,」「No Errors,」「All, But Keyboard」。(既定値)

☞ Memory

これらのフィールドは読み込み専用で、BIOS POST で決定されます。

2-5 Advanced BIOS Features



IGX Configuration

このサブメニューで行った設定は、**MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)**メインメニューの同じ項目で行った設定に同期します。

Virtualization

Virtualizationでは、プラットフォームが独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行します。仮想化では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。(既定値: Disabled)

AMD K8 Cool&Quiet control

- ▶ Auto AMD Cool'n'QuietドライブではCPUとVIDをダイナミックに調整し、コンピュータからの熱出力とその消費電力を減少します。(既定値)
- ▶ Disabled この機能を無効にします。

Hard Disk Boot Priority

取り付けられたハードドライブからオペレーティングシステムをロードする順序が指定されます。上または下矢印キーを使用してハードドライブを選択し、次にプラスキー <+> (または <PageUp>) またはマイナスキー <-> (または <PageDown>) を押してリストの上または下に移動します。このメニューを終了するには、<Esc>を押します。

EFI CD/DVD Boot Option

2.2 TB以上の容量のハードドライブにオペレーティングシステムをインストールする場合、このアイテムをEFIに設定します。インストールするオペレーティングシステムがWindows 7 64-bit and Windows Server 2003 64ビットなどの、GPTパーティションからの起動をサポートしていることを確認してください。Autoでは、BIOSが取り付けるハードドライブに従ってこの設定を自動的に構成します。(既定値: Auto)

First/Second/Third Boot Device

使用可能なデバイスから起動順序を指定します。上または下矢印キーを使用してデバイスを選択し、<Enter>を押して受け入れます。オプションは、フロッピー、LS120、Hard Disk、CDROM、ZIP、USB-FDD、USB-ZIP、USB-CDROM、USB-HDD、Legacy LAN、Disabled です。

Password Check

パスワードは、システムが起動するたびに必要か、または BIOS セットアップに入るときのみ必要かを指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Set Supervisor/ User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。(既定値)
- ▶ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。

☞ HDD S.M.A.R.T. Capability

ハードドライブの S.M.A.R.T. (セルフモニタリングアナリシスアンドリポーティングテクノロジー) 機能の有効/無効を切り換えます。この機能により、システムはハードドライブの読み込み/書き込みエラーを報告し、サードパーティのハードウェアモニタユーティリティがインストールされているとき、警告を発行することができます。(既定値: Disabled)

☞ Away Mode

Windows XP Media Center オペレーティングシステムで Away Mode の有効/無効を切り替えます。Away Mode により、システムはオフになっているように見える低出力モードで入っている間に、実行されていないタスクをサイレントに実行します。(既定値: Disabled)

☞ Full Screen LOGO Show

システム起動時に、GIGABYTEロゴを表示するかどうかを決定します。Disabledでは、標準のPOSTメッセージが表示されます。(既定値: Enabled)

☞ Init Display First

取り付けられた PCI グラフィックスカードまたは PCI Express グラフィックスカードから、モニタディスプレイの最初の表示を指定します。

- ▶ Onboard 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
- ▶ PCI Slot 最初のディスプレイとして PCI グラフィックスカードを設定します。
- ▶ PEG 最初のディスプレイとして、PCIEX16スロットでPCI Expressグラフィックカードを設定します。(既定値)
- ▶ PEG1 最初のディスプレイとして、PCIEX4スロットでPCI Expressグラフィックカードを設定します。

2-6 Integrated Peripherals

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software			
Integrated Peripherals			
			Item Help
OnChip SATA Controller	[Enabled]		Menu Level ▶
OnChip SATA Type	[Native IDE]		
x OnChip SATA Port4/5 Type	IDE		
x OnChip SATA Port as ESP	Press Enter		
Onboard LAN Function	[Enabled]		
Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]		
▶ SMART LAN	[Press Enter]		
Onboard Audio Function	[Enabled]		
USB Controllers	[Enabled]		
USB Legacy Function	[Enabled]		
USB Storage Function	[Enabled]		
Onboard Serial Port	[3F8/IRQ4]		
↑↓←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help			
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults			

☞ OnChip SATA Controller

統合された SATA コントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

☞ OnChip SATA Type (SATA2_0~SATA2_3 connectors)

統合された SATA2_0~SATA2_3 コントローラの動作モードを構成します。

- ▶ Native IDE SATA コントローラが Native IDE モードで動作します。(既定値)
ネイティブモードをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合、Native IDE モードを有効にします。
- ▶ RAID SATA コントローラに対して RAID を有効にします。
- ▶ AHCI SATA コントローラを AHCI モードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバが Native Command Queuing およびホットプラグなどのアドバンストシリアル ATA 機能を有効にできるインターフェイス仕様です。

☞ OnChip SATA Port4/5 Type (SATA3_4とSATA2_5 コネクタ)

OnChip SATA Type が RAID または AHCI に設定されているときのみ、このオプションを構成できます。統合されたSATA2_4とSATA2_5 コネクタの動作モードを構成します。

▶▶ IDE SATA コントローラに対して RAID を無効にし、SATA コントローラを PATA モードに構成します。(既定値)

▶▶ As SATA Type モードは、OnChip SATA Type 設定によって異なります。

☞ OnChip SATA Port as ESP

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software		
OnChip SATA Port as ESP		
Port0 as ESP	[Disabled]	Item Help Menu Level ▶▶
Port1 as ESP	[Disabled]	
Port2 as ESP	[Disabled]	
Port3 as ESP	[Disabled]	
x Port4 as ESP	Disabled	
x Port5 as ESP	Disabled	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

☞ Port0 as ESP/Port1 as ESP/Port2 as ESP/Port3 as ESP

OnChip SATA Type が AHCI に設定されているときのみ、このオプションを設定できます。

Enabled では、接続されたSATAデバイスのホットプラグ検出をスピードアップします。
(既定値: Disabled)

☞ Port4 as ESP/Port5 as ESP

OnChip SATA Type が AHCI に設定されOnChip SATA Type Port4/5が As SATA Type としてに設定されているときのみ、このオプションを設定できます。Enabled では、接続されたSATAデバイスのホットプラグ検出をスピードアップします。(既定値: Disabled)

☞ Onboard LAN Function

オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製アドインネットワークカードをインストールする場合、この項目をDisabledに設定します。

☞ Onboard LAN Boot ROM

オンボードLANチップに統合されたブートROMを有効にするかどうかを判断します。
(既定値: Disabled)

☞ SMART LAN (LAN ケーブル診断機能)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software		
SMART LAN		
Start detecting at Port.....		Item Help Menu Level ▶▶
Part1-2 Status = Open / Length = 0m		
Part3-6 Status = Open / Length = 0m		
Part4-5 Status = Open / Length = 0m		
Part7-8 Status = Open / Length = 0m		
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

このマザーボードは、取り付けたLANケーブルのステータスを検出するために、ケーブル診断機能を組み込んでいます。この機能はケーブル布線問題を検出し、障害またはショート箇所までの適切な距離を報告します。

☞ Onboard Audio Function

オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製アドインオーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。

☞ USB Controllers

統合されたUSBコントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
Disabled では、以下のUSB機能がすべてオフになります。

☞ USB Legacy Function

USBキーボードをMS-DOSでできるようにします。(既定値: Enabled)

☞ USB Storage Function

POST中にUSBフラッシュドライブやUSBハードドライブなどの、USBストレージデバイスを検出するかどうかを決定します。(既定値: Enabled)

☞ Onboard Serial Port

初のシリアルポートの有効/無効を切り替え、そのベースI/Oアドレスと対応する割り込みを指定します。
オプション: Auto、3F8/IRQ4 (既定値)、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3、無効。

2-7 Power Management Setup

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software					
Power Management Setup					
Soft-Off by Power button	[Instant-off]	Item Help Menu Level ▶			
USB Wake Up from S3	[Enabled]				
Modem Ring Resume	[Disabled]				
PME Event Wake Up	[Enabled]				
HPET Support ^(注)	[Enabled]				
Power On By Mouse	[Disabled]				
Power On By Keyboard	[Disabled]				
x KB Power ON Password	Enter				
AC Back Function	[Soft-Off]				
Power-On by Alarm	[Disabled]				
x Date (of Month)	Everyday				
x Resume Time (hh:mm:ss)	0 : 0 : 0				
ErP Support	[Disabled]				
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help					
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults					

☞ Soft-Off by Power button

パワーボタンを使用して、MS-DOS モードでコンピュータをオフにする方法を設定します。

- ▶ **Instant-Off** パワーボタンを押すと、システムは直ちにオフになります。(既定値)
- ▶ **Delay 4 Sec.** パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

☞ USB Wake Up from S3

USB デバイスからの呼び起こし信号により、ACPI S3 スリープ状態からシステムを呼び起こします。(既定値: Enabled)

☞ Modem Ring Resume

呼び起こし機能をサポートするモデムからの呼び起こし信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起こします。(既定値: Disabled)

(注) Windows 7/Vista オペレーティングシステムでのみサポートされます。

☞ **PME Event Wake Up**

PCI または PCIe デバイスからの呼び起こし信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起こします。注: この機能を使用するには、+5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。(既定値: Enabled)

☞ **HPET Support** ^(注)

Windows 7/Vista オペレーティングシステムに対して HPET (高精度イベントタイマー) の有効/無効を切り換えます。(既定値: Enabled)

☞ **Power On By Mouse**

PS/2 キーボード呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。

注: この機能を使用するには、+5VSB リードで 1A 以上を提供する ATX 電源装置が必要です。

▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)

▶ Double Click PS/2 マウスの左ボタンをダブルクリックしてシステムをオンにします。

☞ **Power On By Keyboard**

PS/2 キーボード呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。

注: +5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。

▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)

▶ Password 1-5 文字でシステムをオンスするためのパスワードを設定します。

▶ Any KEY キーボードのどれかのキーを押してシステムをオンにします。

▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押すと、システムがオンになります。

☞ **KB Power ON Password**

Power On by Keyboard が **Password** に設定されているとき、パスワードを設定します。このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注: パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

☞ **AC Back Function**

AC 電力が失われたときから電力を回復した後のシステムの状態を決定します。

▶ Soft-Off AC 電力を回復した時点でも、システムはオフになっています。(既定値)

▶ Full-On AC 電力を回復した時点で、システムはオンになります。

▶ Memory AC 電力が回復した時点で、システムは電力を失う直前の状態に戻ります。

☞ **Power-On by Alarm**

希望するときにシステムのパワーをオンにするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

有効になっている場合、日付と時刻を以下のように設定してください:

▶ Date (of Month) Alarm: 毎日または指定された日のそれぞれの時刻に、システムのパワーをオンにします。

▶ Resume Time (hh: mm: ss): システムのパワーを自動的にオンにする時刻を設定します。

注: この機能を使用しているとき、不適切にオペレーティングシステムから遮断したり AC 電源からコードを抜かないでください。そうでないと、設定は有効になりません。

☞ **ErP Support**

S5 (シャットダウン) 状態の場合、システムで使用する電力を 1W 未満に抑えるかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

注: この項目が **Enabled** に設定されているとき、次の機能は使用できなくなります:

PME イベント呼び起こし、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、呼び起こし LAN。

(注) Windows 7/Vista オペレーティングシステムでのみサポートされます。

2-8 PC Health Status

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software		
PC Health Status		
Reset Case Open Status	[Disabled]	Item Help
Case Opened	No	Menu Level ▶
Vcore	1.364V	
DDR3 1.5V	1.536V	
+3.3V	3.280V	
+12V	12.048V	
Current System Temperature	38°C	
Current CPU Temperature	36°C	
Current CPU FAN Speed	1962 RPM	
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM	
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	
CPU Smart FAN Control	[Enabled]	
CPU Smart FAN Mode	[Auto]	
System Smart FAN Control	[Enabled]	
↑↓←→: Move	Enter: Select	+/-/PU/PD: Value
F5: Previous Values	F6: Fail-Safe Defaults	F10: Save
		ESC: Exit
		F1: General Help
		F7: Optimized Defaults

Reset Case Open Status

前のシャージ侵入ステータスの記録を保存または消去します。**Enabled** では前のシャージ侵入ステータスのレコードを消去し、**Case Opened** フィールドが次に起動するとき "No" を表示します。(既定値: Disabled)

Case Opened

マザーボード CI ヘッダに接続されたシャージ侵入検出デバイスの検出ステータスを表示します。システムシャージカバーを取り外すと、このフィールドは "Yes" を表示し、カバーを取り外さない場合、"No" を表示します。シャージ侵入ステータスのレコードを消去するには、**Reset Case Open Status** を **Enabled** に設定し、設定を CMOS に保存し、システムを再起動します。

Current Voltage(V) Vcore/DDR3 1.5V/+3.3V/+12V

現在のシステム電圧を表示します。

Current System/CPU Temperature

現在のシステム/CPU 温度を表示します。

Current CPU/SYSTEM FAN Speed (RPM)

現在のCPU/システムファンの速度を表示します。

CPU Warning Temperature

CPU 温度の警告しきい値を設定します。CPU 温度がしきい値を超えると、BIOS は警告音を出します。オプションは、Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F です。

CPU/SYSTEM FAN Fail Warning

CPU/システムファンが接続されているか失敗したかで、システムは警告を出します。これが発生した場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。(既定値: Disabled)

CPU Smart FAN Control

CPU ファン速度のコントロールの有効/無効を切り替えます。**Enabled** にすると、CPU ファン は CPU 温度によって異なる速度で作動できます。システム要件に基づき、EasyTune でファン速度を調整できます。無効にすると、CPU ファンは全速で作動します。(既定値: Enabled)

CPU Smart FAN Mode

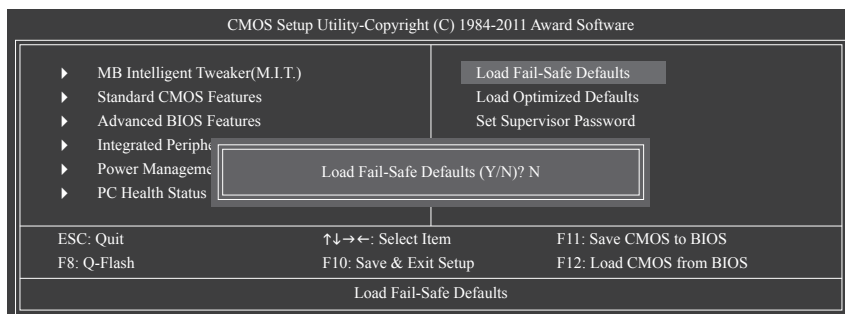
CPU ファン速度の制御方法を指定します。**CPU Smart FAN Control** が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

- ▶ Auto BIOS は取り付けられた CPU ファンのタイプを自動的に検出し、最適の CPU ファン制御モードを設定します。(既定値)
- ▶ Voltage 3 ピン CPU ファンに対して電圧モードを設定します。
- ▶ PWM 4 ピン CPU ファンに対して PWM モードを設定します。

System Smart FAN Control

システムファンの速度コントロール機能の有効/無効を切り替えます。**Enabled** では、システム温度に従って異なる速度でシステムファンを動作します。システム要件に基づいて、EasyTune でファン速度を調整します。無効の場合、システムファンは最高速度で作動します。(既定値: Enabled)

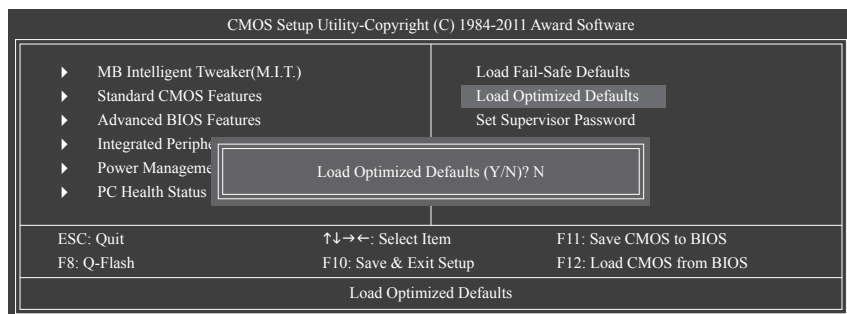
2-9 Load Fail-Safe Defaults



このアイテムで <Enter> を押し <Y> キーを押すと、もっとも安全な BIOS 既定値設定がロードされます。

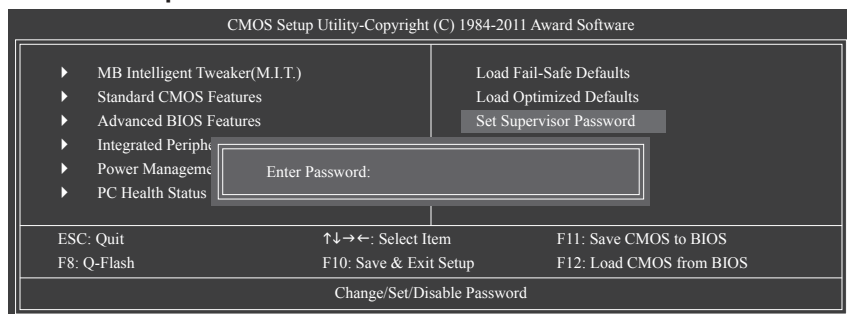
システムが不安定になった場合、マザーボードのもっとも安全でもっとも安定した BIOS 設定である、フェールセーフ既定値をロードしてください。

2-10 Load Optimized Defaults



このアイテムで <Enter> を押し <Y> キーを押すと、最適な BIOS 既定値設定がロードされます。BIOS 既定値設定により、システムは最適の状態で作動します。BIOS を更新した後、または CMOS 値を消去した後、最適化既定値を常にロードします。

2-11 Set Supervisor/User Password



このアイテムで <Enter> を押し 8 文字以内でパスワードを入力し、<Enter> を押します。パスワードを確認するように求められます。パスワードを再入力し、<Enter> を押します。BIOS セットアッププログラムでは、次の 2 種類のパスワード設定ができます：

☞ Supervisor Password

システムパスワードが設定され、**Advanced BIOS Features** で **Password Check** アイテムが **Setup** に設定されているとき、BIOS セットアップに入り、BIOS を変更するには、管理者パスワードを入力する必要があります。

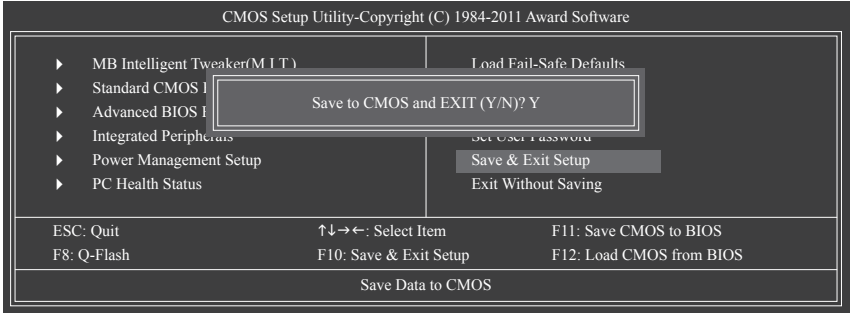
Password Check アイテムが **System** に設定されているとき、システム起動時および BIOS セットアップを入力するには、管理者パスワード (または、ユーザーパスワード) を入力する必要があります。

☞ User Password

Password Check アイテムが **System** に設定されているとき、システム起動時に管理者パスワード (または、ユーザーパスワード) を入力してシステムの起動を続行する必要があります。BIOS セットアップで、BIOS 設定を変更したい場合、管理者パスワードを入力する必要があります。ユーザーパスワードは、BIOS 設定を表示するだけで変更は行いません。

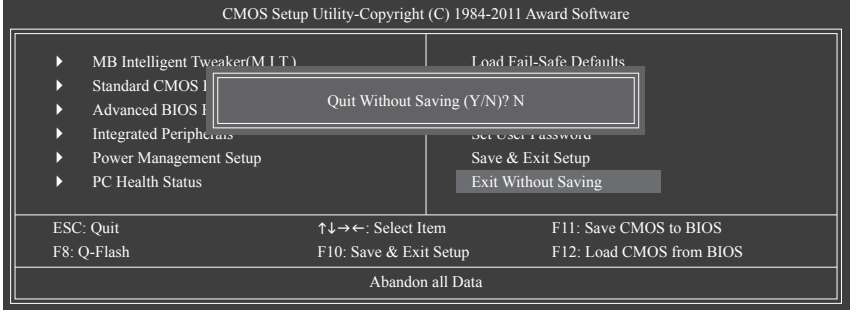
パスワードを消去するには、パスワードアイテムで <Enter> を押しパスワードを要求されたとき、<Enter> を再び押します。「PASSWORD DISABLED」というメッセージが表示され、パスワードがキャンセルされたことを示します。

2-12 Save & Exit Setup



このアイテムで <Enter> を押し、<Y> キーを押します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。<N> または <Esc> を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

2-13 Exit Without Saving



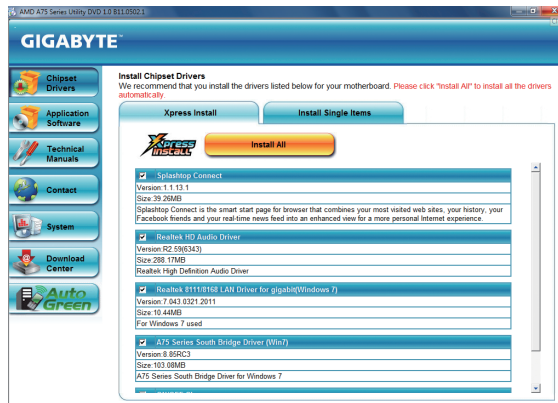
このアイテムで <Enter> を押し、<Y> キーを押します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。<N> または <Esc> を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

第3章 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードドライバを光学のドライブに挿入します。ドライバの自動実行スクリーンは、以下のスクリーンショットで示されたように、自動的に表示されます。(ドライバの自動実行スクリーンが自動的に表示されない場合、マイコンピュータに移動し、光ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

ドライバディスクを挿入すると、「Xpress Install」がシステムを自動的にインストールし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。**Install All** ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が推奨されたすべてのドライバをインストールします。または、**Install Single Items** をインストールしてインストールするドライバを手動で選択します。



第4章 付録

SATA ハードドライブの設定

始める前に

以下を準備してください：

- 少なくとも 2 台の SATA ハードドライブ (最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを 2 台使用することをお勧めします)。RAID を作成したくない場合、準備するハードドライブは 1 台のみで結構です。
- Windows 7/Vista/XP セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。
- USB フロッピーディスクドライブ (Windows XP のインストールの間必要)
- 空のフォーマット済みフロッピーディスク (Windows XP のインストールの間必要)

オンボード SATA コントローラを設定する

A. コンピュータに SATA ハードドライブをインストールする

SATA 信号ケーブルの一方の端を SATA ハードドライブの背面に接続し、他の端をマザーボードの空いている SATA ポートに接続します。次に、電源装置からハードドライブに電源コネクタを接続します。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定する

システム BIOS セットアップで、現在 SATA コントローラモードが設定されていることを確認します。BIOS セットアップメニューの場合、第 2 章「BIOS セットアップ」、「統合周辺機器」を参照してください。

ステップ:

1. コンピュータの電源をオンにし、POST (パワーオンセルフテスト) 中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。**OnChip SATA Controller** が有効になっていることを確認してください。SATA2_0/1/2/3コネクタに対してRAIDを有効にするには、**OnChip SATA Type**をRAIDに設定します。SATA2_4/SATA2_5 コネクタに対してRAIDを有効にするには、**OnChip SATA Type** をRAIDに設定し、**OnChip SATA Port4/5 Type** を **As SATA Type**に設定します。
2. 変更を保存し、BIOSセットアップを終了します。



このセクションで説明されたBIOSセットアップメニューは、マザーボードの設定と異なることがあります。表示される実際のBIOSセットアップメニューオプションは、お使いのマザーボードとBIOSバージョンによって異なります。

C. RAID BIOS で RAID セットを構成する

RAID BIOSセットアップユーティリティに入ってRAIDアレイを構成します。POSTメモリテストが開始された後でオペレーティングシステムがブートを開始する前に、「Press <Ctrl-F> to enter RAID Option ROM Utility」。<Ctrl> + <F>を押してRAID BIOSセットアップユーティリティに入ります。アレイを作成するには、<2>を押して **LD View/LD Define Menu** ウィンドウに入ります。アレイを作成するには、<Ctrl>+<C>を押して **LD Define Menu** に入ります。詳細な設定を行うには、**LD Define Menu** で、上または下矢印キーを使用してアイテムに移動します。次の手順では、例としてRAID 0を作成します。

ステップ:

1. **RAID Mode** セクション下で、<SPACE> キーを押して **RAID 0** を選択します。
2. **Stripe Block** サイズを設定します。既定値は **64 KB** です。
3. **Drives Assignments** セクション下で、上または下矢印キーを押してドライブをハイライトします。
4. <SPACE> キーまたは <Y> を押して **Assignment** オプションを **Y** に変更します。このアクションで、ディスクアレイにドライブが追加されます。**Drv**セクションでは、割り当てられたディスク数が表示されます。
5. <Ctrl>+<Y> キーを押して情報を保存します。図 1のメッセージが表示されます。<Ctrl>+<Y>を押して矢印名を入力します。矢印名を入力しない場合、既定値の矢印名が使用されます。

Please press Ctrl-Y key to input the LD Name
or press any key to exit.
If you do not input any LD name, the default
LD name will be used.

図 1

6. 次のメッセージが表示されたら、<Ctrl>+<Y>を押してMBRを消去するか、他のキーを押してこのオプションを無視します。

Fast Initialization Option has been selected
It will erase the MBR data of the disk.
<Press Ctrl-Y Key if you are sure to erase it>
<Press any other key to ignore this option>

図 2

7. 図 8のメッセージが表示されます。<Ctrl>+<Y>を押してRAIDアレイの容量を設定するか、他のキーを押してアレイをその最大容量に設定します。

Press Ctrl-Y to Modify Array Capacity or press any
other key to use maximum capacity...

図 3

8. 作成が完了すると、画面が **LD View Menu** に戻り、新たに作成されたアレイが表示されます。
9. RAID BIOSユーティリティを終了する場合、<Esc>を押して **Main Menu** に戻り <Esc> を再び押します。

[illegible]

[illegible]

[illegible]



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス : No.6, Bao Chiang Road, Hsin-Tien Dist., New Taipei City 231, Taiwan

TEL : +886-2-8912-4000、FAX : +886-2-8912-4003

技術および非技術。サポート(販売/マーケティング) : <http://gfts.gigabyte.com.tw>

WEBアドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>

GIGABYTE web サイトにアクセスし、web サイトの右下の言語リストで言語を選択してください。

• GIGABYTE グローバルサービスシステム



技術的または技術的でない(販売/マーケティング) 質問を送信するには:

<http://gfts.gigabyte.com.tw>

にリンクしてから、言語を選択し、システムに入ります。